

## 会議結果

会議名	令和7年度第1回西尾市環境審議会
日時	令和7年10月1日（水）午後2時00分から午後3時30分まで
場所	西尾市役所 22会議室（2階）
出席者	委員 …近藤芳英、加藤智子、石川知恵、手島とし子、小林英明、中根静夫、磯貝剛、中澤信、高橋信夫、西野正洋 (欠席委員2人) 事務局 …齋藤環境部長 環境保全課：蛭川課長、下村課長補佐、牧野主事 ごみ減量課：三矢課長、幡田課長補佐、高島主任主査 環境業務課：深谷課長、手嶋主幹 環境事業所：青山所長
傍聴者	報道機関4社
議題	議題2件、諮問事項1件
結果等	

### 1 議題

(1) 第3次環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画案について  
(諮問)

第3次環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画案について説明し、諮問を行った。

(2) ごみ総排出量及びリサイクル率の推移について

ごみ総排出量及びリサイクル率の推移について説明を行った。

### 2 濟問事項

第3次環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画案について

第3次環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の進め方（骨子案）について、説明した内容で進めて問題ないとし、審議を終了した。

### 3 意見

議事・濟問事項に対する主な説明内容、質疑・意見については以下のとおり

議題（1）第3次環境基本計画及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の計画案について（諮問）

「西尾市環境基本条例」に基づき、平成29年3月に「第2次西尾市環境基本計画（区域施策編含む）」（以下、「現行計画」という。）を策定し、令和4年3月に中間見直しを行い、これらの現行計画の進捗状況を把握し、適切に評価するとともに、環境及び地球温暖化に関する国や社会の動向や本市の現状を整理し、より実効性のある計画として改定を行う。

また、令和8年度から目標年度を令和17年度とした10年間の計画として策定する。

(質疑・意見)

高橋委員：海水域における窒素・リンの除去について、現在の三河湾は綺麗になり過ぎて、栄養が少ないとから2017年ごろからアサリが取れなくなった。また、ここ数年前から海苔の質が悪く不漁が続いている後継者もいなくなっている。環境省の基準は、海水浴場の基準であり、漁業にとってはきれいな海になり過ぎているため、環境省の基準に合わせすぎるとあまりよくないと思っている。

事務局：アサリの不漁に関して、県の矢作川浄化センターで窒素・リンの数値は規制値よりも高い数値で放流する実証実験が行われています。県や農水振興課と連携して取り組んでいく必要があると考えています。

石川委員：アンケートでこども意見を取り入れたことはとても良い。KPI指標で新たに小中学生の指標を設定したと説明されたが、「子」の項目を見ると大人も子供も共通する項目がある。子どもも市民の1人であるので、小中学生という指標ではなく、指標の中に市民のうち小中学生というように位置付けるのが良いと思う。

事務局：委員の意見のとおり、大人を対象とした項目でもあり、子どもに限定する形ではなく、市民全体とその内数として子どもの指標を掲載したい。

石川委員：温室効果ガス排出削減は力を入れているのは分かるが、吸收作用の保全強化については、計画として弱いと感じる。吸收作用としては、有機農業（環境保全型農業）の利用が鍵になると思っている。温室効果ガスの吸收も期待できるので考えてもよいのではないか。また、事業者のアンケートの中で製造業、運輸業とあるが農業者にもアンケートは取っているのか。JA西三河も環境に配慮した環境保全型農業の取り組みを行っているので、「脱炭素を1つの手段として地域の強み」という部分に農業が該当し、地域の魅力向上に繋がると確信しているので検討していただきたい。最後に、にしおSDGsの連携が上手くいっていないと思うので、活動されている事業者と連携し意見を聞いて反映される計画になると良いと思う。

事務局：温室効果ガスの削減について、吸收による削減も図っていく必要があります。農業における温室効果ガスの吸収については、今後検討ていきたい。

また、事業者アンケートについては、無作為抽出で行っているため、農業法人も対象になっている。今後、事業者ヒアリングを行っていく予定であるが、その事業者には農業関係者にも対象となっている。

にしおSDGsパートナーとの連携については、環境学習講座の講師を依頼させてもらっております、連携している事業者もいる。今後も積極的に連携を図っていきたい。

議題（2）ごみ総排出量及びリサイクル率の推移について

西尾市環境基本条例の一般廃棄物の減量及び適正処理に関する事項の規定に基づき、一般廃棄物処理基本計画の進捗状況の説明を行う。

西尾市は、家庭系のごみが多いことを聞いたことがあると思うが、家庭系ごみの排出量は令和3年度以降減少傾向にある。1人1日当たりの排出量が、平成26年度から令和4年度ま

で、県内38市で9年連続ワーストワンという状況が続いていた。令和5年度以降、県内ワーストを脱却した。事業系ごみについては、令和5年度以降減少傾向にある。資源物量及びリサイクルについては、ごみの排出量は減少傾向にあるが、資源物の量は横ばいという状況にある、結果的にリサイクル率は増加傾向にある。雑がみ回収量について、令和2年度に雑がみの回収範囲を拡大し、令和4年度に雑がみ回収袋を全戸配布行った。また、出前講座やSNSを活用し情報配信を行った結果、回収量は順調に増加傾向にある。常設資源ステーションの利用状況については大変多くの方に利用いただきしており、資源ごみ全体の17%を占めている。資料外の説明として、令和8年4月以降に一片が50cm以下のプラスチック製品の回収を緑色のプラスチック指定袋に変更をする。市民説明については令和7年6月から小学校区ごとに説明会を開催している。

(質疑・意見)

西野委員：家庭系ごみの減少について令和2年度は少し特殊として、令和3年度以降ものすごいスピードで減少傾向にあるが、減少の理由は。

事務局：減少理由について、明確な理由はないが、コロナ禍以降、ごみの排出が減少傾向にあり、考えられる理由として、物価の高騰による買い控えがごみの量の減少、雑がみ等の資源物の量の増加が理由として考えられる。

中澤委員：子どもがいる家庭の父親として、数年前に、ごみの排出量が県内ワーストワンということが、子どもたちにとって非常にショックなことであった。雑がみの収集袋が各家庭に配られてからは、家庭の中で雑がみ収集が定着した。ワーストワンというショックな状況であったから、これだけの回復があったと考える。今後も続けていただきたい。また、西尾市は海、山のある自然の豊かな地区であるので、子どもたちが誇れるような自然を活かした全体的な対策が残せるとよい。

事務局：雑がみ等ごみの関係について、雑がみに限らず広く情報を発信できるように広報やSNSを活用して継続していきたいと考えておりますので、今後ともご協力お願いいたします。

(全体を通しての質疑・意見) なし